

ビデオ会議システムによる 異文化理解教育と日本語教育のための ディスカッション ーディープ・アクティブラーニングを取り入れた試みー

Video Conferencing Discussions for Cross-Cultural
Understanding and Japanese Language Education:
Adopting Deep Active Learning

深川美帆（金沢大学）

Miho Fukagawa (Kanazawa University)

川本健二（チャナツカレ・オンセキズ・マルト大学）

Kenji Kawamoto (Canakkale Onsekiz Mart University)

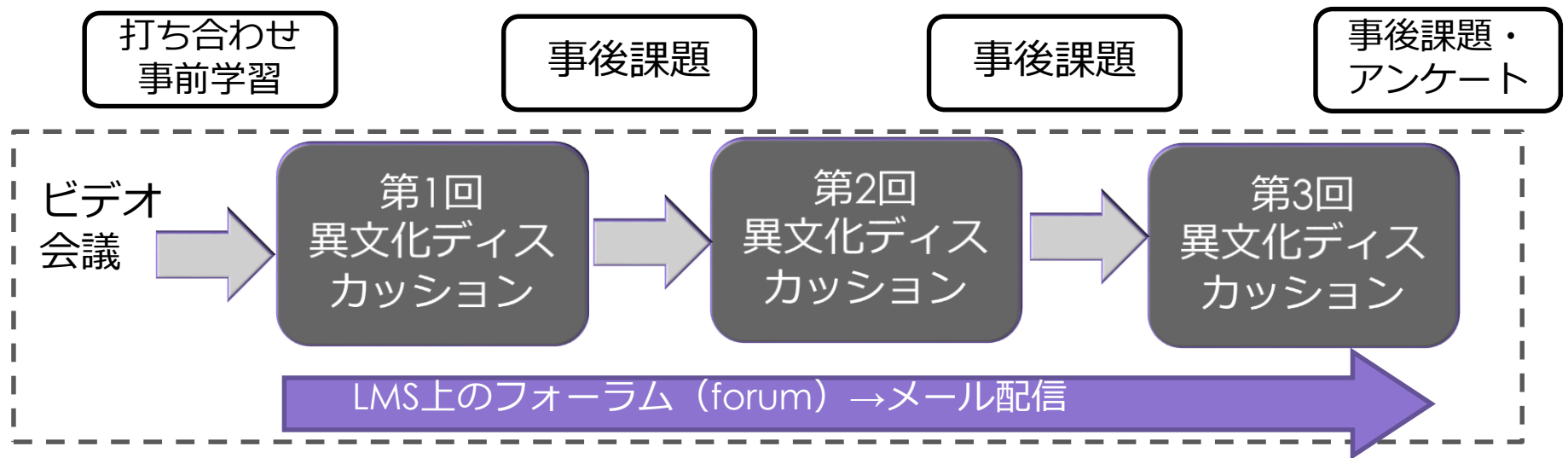
三浦香苗（金沢大学）

Kanae Miura (Kanazawa University)

4.研究方法 Method

DLAの観点を取り入れた異文化ディスカッションの流れ

- 1回限りではなく、3回の連続したディスカッション
- 参加者は各グループとも毎回同じメンバー
- ディスカッション外でもやりとりが続けられるフォーラムの設置
- ディスカッションのテーマを学習者ら自身で考えて決定



ディスカッション：ビデオ会議を通して、相手国とテーマについて意見交換
事後課題：ディスカッションを通して自分が考えたこと、思ったことを言語化
フォーラム：ディスカッション時間外でのインターネット上での継続した意見交換

4.研究方法

今回の異文化ディスカッション 概要

参加者プロフィール

2016年12月から2017年1月にかけて、日本国内の大学で学ぶ日本人学生12名と、トルコ共和国の大学で学ぶ日本語学習者9名を対象に、各国2つのグループに分けて行った（各回1グループ4~6名）。

ディスカッションでの使用言語は日本語。



トルコ

（チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学）

- 日本語教育学科2年生9名（1年生4名、2年生4名、3年生1名）
- 男子学生3名、女子学生6名。
- 日本語・日本事情を学んだ経験あり。
- 日本への留学経験はない。
- 日本語学習歴は約4年～5年。上級レベル（JLPTのN2以上相当）
- 授業外の活動。教師からの案内で興味・関心を持つ者が参加。



日本

（金沢大学）

- 人文系学類（学部）の12名（1年生2名、2年生4名、3年生5名、4年生1名）
- 男子学生4名、女子学生8名。
- 全員、トルコについての特別な背景知識や滞在経験はない。
- 他国への留学経験や旅行の経験がある学生が何名かいる。
- 授業外の活動。活動の目的やスケジュールを記した案内文を見て興味・関心を持つ者が参加。

4.研究方法

今回の異文化ディスカッション 概要

グループ分け・実施日時

回 日時	グルー プ	トルコ時間	トルコ参加者	日本時間	日本参加者
第1回 12月26日 (月)	G1	7:00-8:00	4名 (M1/F3) T11,T12,T13,T14	13:00-14:00	4名 (M1/F3) J11, J12, J13, J14
	G2	10:30-11:30	4名 (M2/F2) T21,T22,T23,T24	16:30-17:30	5名 (M3/F2) J21,J22,J23,J24,J26
第2回 1月13日 (金)	G1	9:00-10:00	4名 (M1/F3) T11,T12,T13,T14	15:00-16:00	6名 (M1/F5) J11, J12, J13, J14, J15, J16
	G2	10:45-11:45	5名 (M2/F2) T21,T22,T23,T24,T25	16:45-17:45	5名 (M3/F2) J21,J22,J23,J24,J25
第3回 1月23日 (月)	G1	9:00-10:00	4名 (M1/F3) T11,T12,T13,T14	15:00-16:00	6名 (M1/F5) J11, J12, J13, J14, J15, J16
	G2	10:45-11:45	4名 (M2/F2) T21,T22,T23,T24	16:45-17:45	5名 (M3/F2) J21,J22,J23,J24,J26

4.研究方法

今回の異文化ディスカッション 概要

ディスカッションのテーマ

第1回目は「互いの国の社会、人を知る」ことをテーマに指定。トピックは開始前に日本、トルコそれぞれで話し合いたいことを打ち合わせ。第2回目以降は、参加者らがフォーラムでのやりとりを通して決定。

回	Group1	Group2
第1回	相手の国、社会、そこで暮らす人たちについて、今よりも深く知る。 -大学生の1日の過ごし方（サークル活動、アルバイト） -トルコと日本の祭り -トルコと日本の物価、給料 -女性は社会に出て働くかどうか -育児は男性、女性、どちらがするのか -外国で働きたいと思うかどうか	食べ物について -日本から見たトルコのイメージ -愛国心について -自分のなりたい職業について -なりたい仕事の資格と就職先
第2回	大学教育について	政治・宗教について 大学と進路について （幸福感に関わる諸要因）
第3回	女性の社会進出・就職と仕事	日本の社会で女性の地位

4.研究方法

今回の異文化ディスカッション 概要

■ 使用機器

カメラ：Logicool BCC950
ウェブカメラ

スピーカー・マイク:YAMAHA
PJP-20UR 会議用マイク
スピーカー

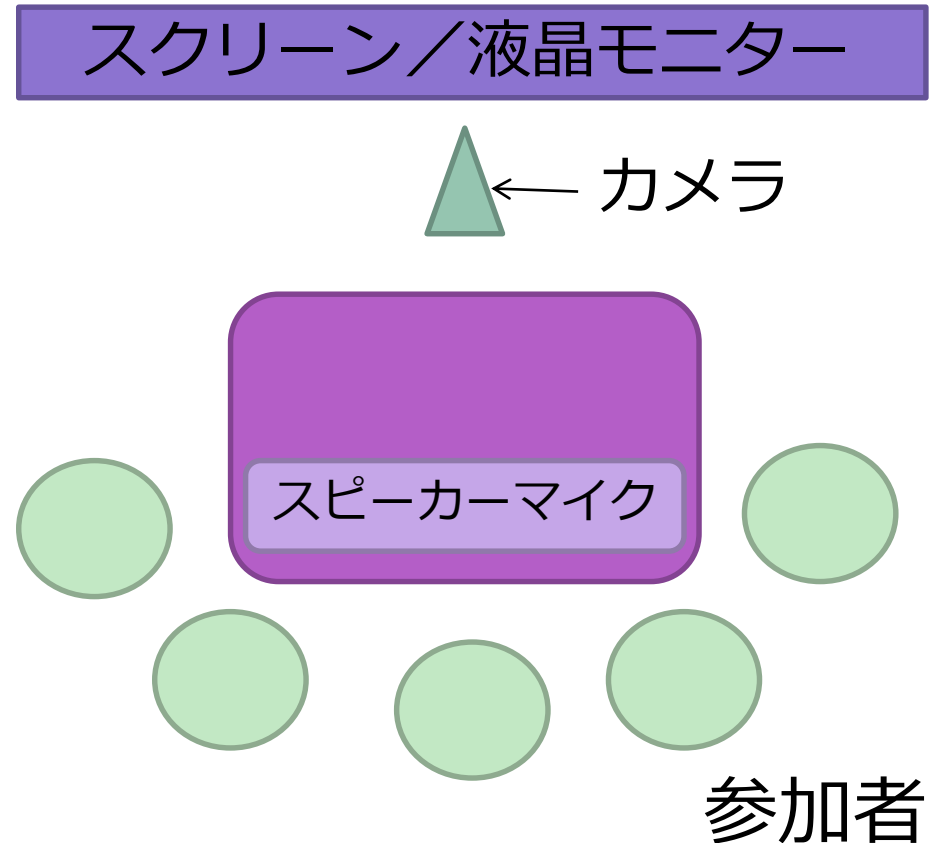
■ ソフトウェア

Skype (最終的なバージョンは
6.14.0.104)

■ 学習管理システム(LMS)

moodle (バージョン3.0.2)

■ 配置図



4.研究方法

今回の異文化ディスカッション 概要

教授者の関与

日本語教師（日本側2名、トルコ側1名）がファシリテーターとして関与・観察

- 活動開始前に、参加者に対して活動の目的や手順を説明した。
- ディスカッションのテーマを決める際、学習者らが話し合いに行き詰まった場合には、適宜介入して話を促した。
- 相手国の事情についてわからないことがあって質問があった場合には、情報を提供した。
- フォーラムへの投稿や、事後の課題については、意図の説明、指示を出した。
- ディスカッションの間は、参加者から離れた位置で観察。時間配分のリマインドや話が停滞した場合には介入したが、ディスカッションの内容に踏み込むようなことはしなかった。

4.研究方法

今回の異文化ディスカッション 概要

事後タスク

毎回、ディスカッション終了後一週間以内に下記の点について、自分が考えたことを書いてLMS上に提出。(日本人学生、トルコ人学生とも日本語で記述)

<項目>

1. ディスカッションへの満足度(4択) とその理由
2. ディスカッションへの参加度(4択) とその理由。
3. ディスカッションを通して、相手の国(人)について、わかったこと、気づいたこと
4. ディスカッションを通して、自分の国(人)について、わかったこと、気づいたこと
5. ディスカッションの前は考えなかったけれども、今は考えるようになったこと
6. 全3回のディスカッションとフォーラムでのやりとりを通して、考えたこと(第3回のみ)

4.研究方法

今回の異文化ディスカッション 概要

アンケート、フォローアップインタビュー

全3回終了後一週間以内に下記の質問に回答し、LMS上に提出。（日本人学生、トルコ人学生とも日本語で記述）

<項目>

1. 全3回のビデオ会議ディスカッション活動の満足度（4択）とその理由
2. スクリーン画面と音声の状態（4択&記述）
 - 3.1 フォーラム上での意見交換は、ビデオ会議のときに役に立ったと思うか。
 - 3.2 フォーラムへ投稿したメッセージのメールへの自動送信は、役に立ったか。
 - 3.3 フォーラムへの参加度（4択）。
4. 全3回のビデオ会議ディスカッション活動で、よかったと思うこと（面白かった、自分にとって得るものがあった、など）。
 - 4.1 全3回のビデオ会議ディスカッション活動で、日本語の学習にとってよかったこと、役に立ったこと。（トルコ人学生のみ質問）
5. 全3回のビデオ会議ディスカッション活動で、期待していたが、できなかったこと（話したかったことなど）。
6. またこのような機会があれば参加したいと思うか。
7. その他、この活動について、思ったこと、気がついたこと

フォローアップ・インタビューは、事後タスク、アンケートに書いてある内容について発表者らが対面で質問し、意図を確認。

参考文献 References

1. ドゥルーズ、G.著・財津理訳（1992/2007）『差異と反復』上下、河出書房新社
（Deleuze,Gilles“Différence et répétition”1968）
2. 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター（編）溝上慎一（著）（2015）『ディープ・アクティブラーニングー大学授業を深化させるためにー』勁草書房
3. 溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
4. レヴィナス、エマニュエル著・熊野純彦訳（2005）『全体性と無限』上下、岩波書店（Lévinas, Emmanuel “Totalité et infini”1961）
5. 鷺田清一（1999/2015）『「聴く」ことの力ー臨床哲学試論』筑摩書房
6. 川本 健二（2016）「ビデオ映像を通しての他者理解についての思想的ー考察ービデオ会議ディスカッションの事例から」第20回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム, 口頭発表
7. 川本 健二・深川 美帆（2015）「ビデオ会議における「異文化理解」を再考する - 「他者」の議論を手がかりに - 」第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム, 口頭発表
8. 深川 美帆・太田 亨・川本 健二（2014）「異文化理解と自己成長のためのビデオ会議ディスカッションー日本とトルコとのビデオ会議における考察からー」日本語教育国際研究大会, ポスター発表
9. 三浦香苗・太田亨・深川美帆（2012）「ビデオ会議による異文化交流ディスカッションの方法論確立へ向けて」世界日本語教育研究大会（名古屋）, ポスター発表
10. 深川美帆・三浦香苗（2010）「異文化交流ディスカッションにおけるトピックについてー実践からの考察をもとにー」『金沢大学留学生センター紀要』第13号, pp.23-44 金沢大学留学生センター